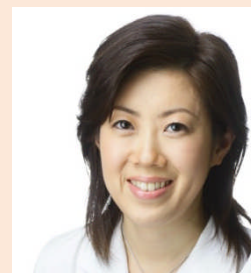


統合医療施設

分子整合栄養医学と東洋医学を融合し
薬を使わず治療する

クリニックハイジアー(東京都品川区)



薬を使わずに治療を行うクリニックハイジアー。ここで院長を務める矢崎智子医師は、分子整合栄養医学、東洋医学、天然ホルモン療法を用いた診療を開始して約8年の経験を持つ医師だ。大学卒業後、産婦人科医として大学病院にしばらく勤務したのち、鍼灸治療を学び、それから自身のクリニックを開いた。

「開業当初は漢方治療をメインに行なっていました。じつは父も医師で、自分自身の結核を針治療や漢方医学で治した経験を持っており、それがそのまま父の診療にも生かされているのを見ながら私は育ちました。私自身も父のその知識に助けられた経験がありました。それで、大学で西洋医学を修めた後、産婦人科の診療に漢方の知識を利用して体質改善などを行なう診療活動を始めました」という矢崎医師。その後、治療における栄養の存在にも関心が高まってきたことから、次に分子整合栄養医学にも取り組むことになった。

分子整合栄養医学とは、「分子の異常が病気を引き起こす」という概念に基づき、至適量の栄養素を用いて分子を整合することによって病気を治そうという医学で、ビタミンCの風邪に対する効果を発見したライナス・ポーリング博士や、ナイアシン(ビタミンB3)をうつ病の治療に使ったアブラム・ホッフアー医学博士らが1960年代から北米で築いてきた医学である。実際の治療方法は、北米で行われているやり方と日本のそれとでは少々異なる部分もあるというが、たとえばクリニックハイジアーでは60を超える血液や尿の検査項目を中心に患者さんの体内の状態を解析し、診断していく。

●若い世代に多い慢性疲労。原因はタンパク質不足

そして診断にもとづき、治療用の栄養サプリメントを処方して根本治療を行なっていく。使用しているサプリメントは、アメリカの栄養療法の基準を満たし、医薬品と同じGMP基準を満たした日本国内の工場生産されている、天然物由来・高濃度・高品質の医療用

婦人科疾患	不妊症、更年期障害、月経前症候群、無排卵月経、生理痛、子宮内膜症、子宮筋腫、月経不順、乳腺症など
皮膚疾患	アトピー性皮膚炎、尋常性乾癬、ニキビ、肌荒れ、しみ、しわ、たるみ、慢性湿疹など
がん	胃がん、乳がん、卵巣がん、子宮頸がん、大腸がん、すい臓がん、肺がん、白血病など
生活習慣病	糖尿病、肥満、メタボリック症候群、高脂血症、高血圧、脂肪肝、動脈硬化症、心筋梗塞、脳梗塞など
精神神経疾患	うつ、パニック障害、統合失調症、自律神経失調症、情緒不安定、不安、不眠強迫神経症など
そのほか	摂食障害、自己免疫疾患(関節リウマチ、膠原病など)、骨粗しょう症、潰瘍性大腸炎など

サプリメントで、副作用はほとんどなく、たとえば薬を服用中であっても併用が可能だ。

現在、クリニックハイジエアの診療の中心はこの栄養療法になっており、必要に応じて漢方の処方も補っていく。実際、分子整合栄養医学にのっとして、血液や尿の検査を実施すると、栄養状態の悪い患者が非常に多いという。漢方で使用する薬は栄養に代わるものではないので、栄養状態が悪い患者に漢方薬だけを処方しても顕著な効果が出ないのには、その根底に栄養欠乏があるからだということを矢崎医師は日々の診療から学んでいるという。

現在、矢崎医師が治療や予防の対象としている症状や疾患は、前頁の表の通り。最近、来院する10代、20代の若者で気になるのは、ひどい慢性疲労のある患者だという。クリニックで血液検査による栄養分析をしてみると、タンパク質不足で血液中のアルブミンが減少し（一見、検査データ上は減少しているように見えないことも多いため、分析には特別な知識が必要）、血液中の水分量が減少して脱水状態になっていることがよくあるというのだ。

この理由について、矢崎医師は、世間に「肉がダメだ」という情報が氾濫し若い人でも動物性食品を躊躇するようになっていたり、食事を簡単に済まそうと思って炭水化物が多い食事になってしまうためではないだろうか、と分析している。毎日の食事から、ただ動物性食品を抜くだけで健康的な野菜食になるとは限らない。こういう場合は、「動物性・植物性にかかわらず、タンパク質が不足することが栄養面で大きな問題」と考え、「タンパク質の吸収がよく、鉄を摂るためにも有用な動物性タンパク質も有効に利用し、野菜もよく食べるように」と指導している。

■クリニックハイジエア

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-13-2 3階

TEL : 03-6826-8776 (完全予約制)

<http://www.clinic-hygeia.jp/>